

子ども大学かわごえ  
CUKだより

第74号 No.160709  
2016年11月3日

第9期第2回授業

日時：2016年7月9日(土) 14:00～16:00  
場所：尚美学園大学北オーディトリウム  
テーマ：EU～国境のない世界～  
講師：実践女子大学 柑本英雄 教授

自己紹介と今日の内容

こんにちは。実践女子大学の柑本と言います。皆さん、この漢字「柑」を読めますか？そうです、今、その学生さんが言ってくれたように「蜜柑（みかん）」の「かん」です。でも、「かんもとせんせい」ではなく、「こうじもと」と読みます。せんせいが蜜柑を食べているとお友達に「共食い!!」とよく笑われました。今日はよろしくお願ひします。

ここは「子ども大学」ですから、今日1日、私はこの教室の中では皆さんとは小学生ではなく“大学生”として接することにします。さて、それではその大学生の皆さんにひとつ質問します。「勉強」を好きな人はどのくらいいますか？なるほど、思ったより結構勉強好きな人が多いですね。でも、残念だけど、今日は、皆さんと「勉強」はしません〔フロアーから「えーっ」という声と共に、別の学生から拍手も起きる〕。勉強ではなく、議論という話し合いを通じて「研究」をしていきましょう。そうです、先生と一緒にEUについて研究をするのです。保護者の方に、おうちで「今日は子ども大学でどんな“勉強”したの？」と尋ねられたら、「“勉強”じゃないよ、EUについての“研究”をしてきたんだ!!」とカッコよく話してあげてください。



[https://europa.eu/european-union/about-eu/symbols/flag\\_en](https://europa.eu/european-union/about-eu/symbols/flag_en)

この旗を見たことがありますか？

〔フロアーから「ある～!!」の声〕

今日は、この旗を持つEUについて、なぜ“国境”のない世界がそこでは広がっているのか

を考えていきましょう。まず、1時間目には「なぜEUが生まれたのか」を考えます。そして、EUはどのような考えのもとに世界の中でどんな活動をしているのかについて考えます。2時間目には、民主主義とは何かを考えるために、皆さんがEUの加盟国の代表になって法律を決めるシミュレーションゲームをしてみましょう。

## EUはなぜ生まれたのか

### 【EUの加盟国】

さて、では、まず国々がさまざまな政治や経済の分野で協力をしている欧州連合、すなわち、EUがなぜ生まれたかを考えてみます。この地図を見てください、これがEUに加盟している国々です。EUにはヨーロッパ全部の国が入っているでしょうか？入っていないのはどこでしょう？そうです、この地図の真ん中あたりがぼっかり空いています。

〔フロアーから「スイス!!」の声〕

その通りです。「スイス」は入っていません。それからここ「ノルウェー」も入っていません。実は、デンマークのフェローという島々、グリーンランドはEUには入っていません。

### 【銃の暴力と核戦争をさける方法】

では、ここで、EUがなぜ生まれたのかを考えるために、第1ステップとして「銃の暴力」について考えてみましょう。昨日、7月7日にアメリカのテキサス州ダラスで大変なことが起こりました。人種差別反対のデモの最中に5人の警官が犯人によって狙撃され殺害されました。皆さんは、このような悲劇が生まれないようにするにはどうしたらよいと思いますか？遠慮せずにどんどん発言してみてください。ものの考え方や意見の違い、利益が違って対立することはあってもよいのです。でも、それをどう解決していくのかで、暴力を使ってはいけません。そういう観点から銃の暴力をなくす方法を考えてみましょう。

〔フロアーから「銃を売らない」「銃を作らない」「法律を作る」「火薬を作らない」など多くの声が活発にあがる〕



素晴らしいです、いろいろなアイデアが出ましたね。これがわかりやすく言うと“勉強”と“研究”の違いです。研究というのは、自分の頭を使って、どんどん考え発言し議論していくことです。EUはなぜ生まれたのかを考えるのに、なぜ「ダラス」の事件をとりあげたのかのハテナも頭の片隅に置いておいてください。

- 1 銃をなくす。
- 2 銃を使う意志（気持ち）をなくす。
- 3 銃を使うことを許さない社会をつくる。

このどれか1つを欠けさせるだけで銃の事件を防ぐ力になります。さきほどの声では、1の「銃をなくす」に近い答えが多かったように思います。確かに、1も大切だけど、2のように「銃を使おうとしている人」に「銃を使う意志」を無くさせてもいいし、3のように「銃を使うことを許さない社会」を作ってもいいのです。

実は、アメリカに比べて銃の事件が少ない日本でも、結構、私たちの身近に銃は存在します。どこにあると思いますか？

〔フロアーから「警察!」「運動会のパン!っていうピストル!」の声〕

そうです、まず警察があります。他にも、自衛隊や自宅に許可をとって猟銃を持っている人もいます。日本では、このように銃が近くにあっても、そんなにいつも人々が銃におびえているというわけではありません。それはなぜでしょうか？その理由として、もめ事を解決するのに、「銃を使うことを許さない社会」が日本には育まれているからです。そして、ユニークな答えも出ましたね、スタートピストルはあの音だけで、ものすごい恐怖ですから（笑）。これはとてもよい答えです。地雷で相手を脅かすときは、実際に地雷を埋めなくても安全ピンを通り道に落としておくだけで効果があるので、この場合も、音だけでも相手を威嚇する効果があるかもしれません。

では、第2のステップに移りましょう。ちょっと考えてください。核爆弾は実際の戦争ではどこで使われましたか？

〔フロアーから「広島!」「長崎!」の声〕

そうです、広島と長崎の2か所です。核爆弾は実戦では日本だけでしか使われていません。2度とこんな悲劇が起きてはいけませんよね。では、さきほどの方法で考えてみましょう。どうすれば、核爆弾が使われなくなるのでしょうか？

〔フロアーから「核爆弾を作らない!」「核爆弾を廃止する!」などの声〕

意見を有難うございます、銃のところを核爆弾に置き換えて考えれば答えは出てきます。

- 1 核爆弾をなくす。
- 2 核爆弾を使う意志（気持ち）をなくす。
- 3 核爆弾を使うことを許さない国際社会をつくる。

### 【紙爆弾の投げ合い】

さあ、この第1と第2のステップを理解でき、第3のステップに移る前に、今までの子ども大学の講義ではなかった作業をしてもらおうと思います。実践女子大学の学生さんたち、作業のお手伝いをお願いします。今から、子ども大学の皆さんを「EUの加盟国代表」に任命します。自分がどこの国の代表か、近くのプラカードの下に国ごとにまとまってください。

今日は、人数的なことから考えて、ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペイン、ポーランド、ルーマニア、オランダ、ギリシャ、ベルギーに分かれてもらいましょう。それぞれの国で大統領か首相を決めてください、そして防衛大臣を1人決めてください。決まったかな？

決まったら、防衛大臣は教壇に道具を取りに来てください。3色の紙とマジックペンを渡します。

赤い紙にはC、緑の紙にはI、黄色の紙にはAと書いてください。半分に切ってもいいので、一人一人に渡るようにしてください。書いたら丸めてクシャクシャにしてください。そのクシャクシャの紙を皆さんでたくさん作ってください。作業が終わったら先生の方を見て静かに待ちましょう。

各国とも、作業が終わったようですね。それでは、先生のホイッスルの合図で10秒間、丸めた紙を皆の所で投げ合ってください。階段教室後方の保護者の皆さんの方向には投げかけてはいけません。お互いに投げ合ってください。拾って再度投げても大丈夫です。10秒間です。では、はじめ!!

[フロアーは子どもたちが叫びながら、お互いに紙つぶてを投げ合う]

[ホイッスルの音とともに停止が宣言される]

さあ、やめ~!もう、投げ合ってはいけません。

[ざわざわと興奮が冷めやらない感じがフロアーに漂う]

### 【戦争の結末】

皆さんの周りを見渡してください。赤や緑、黄色の紙が散乱してたいへんなことになっています。あっ、そこの学生さん、まだ、紙を拾わないでくださいね!!汚れたそのまま、みんなで議論しましょう。

[ここで爆撃され焼け野原になった第2次世界大戦終戦直後のドイツの都市ドレスデンの映像を見せる]

この焼け野原の写真を見て皆さんはどう思われますか?戦争の結末のすさまじさがわかると思います。こちらは同じ場所からの今のドレスデンです。何十年もかかって焼け野原がこのように復興しました。皆さんが投げ合った紙つぶてで汚れた教室は、ちょうど、国家と国家が武力でぶつかった結果、爆撃でむちゃくちゃになってしまった第2次大戦直後のヨーロッパと同じですね。

では、皆さんが投げ合った紙をすべて拾って下さい。拾ったら紙を広げてみましょう。何



が中に書いてあるのでしょうか？赤はCで、これはCoal、すなわち石炭を表します。緑はIで、Iron すなわち鉄を表します。黄色はAで、Atomic すなわち原子力です。これらの石炭・鉄・原子力はいったい何を表しているのでしょうか？

〔フロアーから、「資源!」「エネルギー!」の声があがる〕

他には何かありませんか？

〔フロアーから「戦争をするための材料だと思う!」の意見が出る〕

すばらしい。全部戦争の材料、それを使って皆さんはお隣の国々と戦争をしてしまったのです。さっきステップ1でお話したダラスの銃撃事件では銃を使った事件が起きないようにするためには、「銃をなくす」、「銃を使う意志をなくす」、「銃を許さない社会を作る」という方法を確認できました。ステップ2の核戦争が起こらないようにするには「核爆弾をなくす」「核爆弾を使う意志（気持ち）をなくす」「核爆弾を使うことを許さない社会をつくる」という方法があることが理解できました。

これを参考に、ステップ3として考えると、ヨーロッパで起きたような戦争をなくすためには、まず「戦争で使う道具をなくす」ことが考えられます。では、早速それを実行に移してみましょう。さっきの赤い紙の「石炭」、緑の紙の「鉄」を実践女子大学のお姉さんたちが持ってきている大きな袋に色別に集めましょう。お手伝いのお姉さんたち、回収をお願いします。

皆さん、戦争でエネルギーとして使う「石炭」、道具となる「鉄」は自分の周りに落ちていませんか？大丈夫ですか？次に、黄色い紙の「原子力」も、別の袋に集めましょう。身の周りに「核」は落ちていませんか？それでは、お姉さんたち、教壇のところにすべての袋を持ってきてください。赤（石炭）も緑（鉄）もこんなに何袋も集まりました。黄色（原子力）も袋いっぱいです。

〔フロアーから「先生のところにゴミ集めたから、先生は放射能汚染されちゃった!!」の声と笑い声〕

なるほど、鋭い意見です。でも、見てください（黄色の紙の入った袋を掲げながら）、お姉さんたちはきちんと袋の口を閉じてくれているので原子力の放射能は漏れません。袋を閉じて管理すれば大丈夫です〔フロアーから笑い〕。もう、これで皆さんの手元には、「戦争をするための道具」は一つ残らずなくなったわけです。この写真のように、「タンク（戦車）」「飛行機」、それから「Uボート」（ドイツ独特の潜水艦）のような戦争の道具を作るための鉄も、それを加工するためのエネルギーも手元からなくなったわけです。

### 【戦争をなくすために】

順番からいくと、次は、「戦争する意志をなくす（紙を投げたい気持ちをなくす）」についての議論です。ドイツを戦争に向かわせたものは何だったのでしょうか。それは、「自分たちの民族が一番優れている」「自分たちが一番偉い」「だから戦争してもいいんだ」という気持ちでした。この写真は当時、ドイツを率いていたナチスという政党の独裁者ヒトラーです（写真）。ヒトラーが来たら国民はみんな「ハイル・ヒトラー!」「ヒトラー万歳!」と叫びました。国民みんなの気持ちがたかぶって戦争を起こしてしまったのです。

ナチスがどんなことをやったか見てみましょう。1つはアーリア人という人種だけが優越民族として偉いと考えました。ユダヤ人はみんな死んでしまえと宣伝して、実際に殺しました。ポーランド人も迫害しました。自分たちの人種が一番偉いという思い上がりからです。恐ろしいことが実際に起きていたのです。「ゲシュタポ」という秘密警察が夜中、突然ユダヤ人の家に来ます。「子どもが寝ています、少し待ってください」と言っても、連れて行かれます。連れて行かれたらほとんどの人が二度とその家には帰ってこられませんでした。強制収容所というところに入

られます（写真）。ここに入ったら、ガス室でみんな殺されました。その前に時計、指輪、金歯、眼鏡など価値のあるものは取り上げられました。それらは死んだら必要ないからです。皆さんが知っているアンネフランクも、2年間ほどオランダのアムステルダムにあった隠れ家に潜んでいたのですが、皆さんより少し上の年齢で強制収容所に連行されます。彼女はその収容所の中で、病気で亡くなってしまいます。オランダに行ったらぜひ、「アンネの家」を尋ねてみてください。

### 【ナチスを2度と生まないために】

これで、戦争の道具を作らない、持たない、使おうとする人間の気持ちを持たせない大切さをわかってもらえたと思います。では、「ナチス」という政党や「ヒトラー」のような独裁者が2度と出てこない社会を作るには、どうしたらいいのかをさらに考えましょう。今のドイツが偉いのは、その過去の自分たちの間違いを徹底的に反省したことです。皆さんはご存知でしょうか？ ドイツでは今、この敬礼（ヒトラーに対して行った右手を高く上げる敬礼）はしてはいけません。法律で禁じられています。第三帝国を連想させるこのマーク（鍵十字）も使うことを法律で禁止しています。ドイツだけではなく、フランスやオーストリアのようにいくつかのヨーロッパの国々も、この旗を使うことを法律で禁止しています。

そして、政治の中でもいくつかの工夫を施しています。まず、ドイツをいくつかの州に分け、小さな州という国の集合体にしました。そこにほとんどの政治的な力を渡してしまい、国家は外交や防衛などの大切なことのみを担当するようにしたのです。能率が悪いと日本の私たちは思いがちですが、国の中央政府に権力を集中させないようにしているのです。中央政府にすべての力を持たせてしまうと、ヒトラーのような独裁者が生まれることになってしまうかもしれないから、権力を分散するシステムを作ったのです。

もう1つの方法は連邦政府を形成する国会議員の選挙で比例代表制を導入したことです。これはドイツが上手に作り上げた選挙の方法です。キリスト教民主同盟や緑の党といった「政党」というグループに有権者は1票を入れるのです。人を選ぶのではなくて、政党に投票された割合に基づいて議席が配分されていきます。今度はあらかじめ提出された名簿順に各政党で議員が選ばれる、これが比例代表制です。たくさんの政党がいくつか国会の中にあります。1つの政党だけが大幅勝利をおさめるようなことは、この選挙システムでは起きません。さっきの州政府に権限を分散したのと同じで、2度とナチスのような大きな政党を作らせない、小さな政党が協力しあって国を運営するようしていくということです。

### 【欧州石炭鉄鋼共同体と欧州原子力共同体】

もう1つ、ナチスを生まない3番目の方法が考えられました。今日みなさんに投げかけた質問は「EUがなぜ生まれたのか」でしたね。フランスの政治家たちが中心になって、C=石炭、I=鉄、これらの「戦争を遂行するための原料」をヨーロッパの国々で共同で管理するために「欧州石炭鉄鋼共同体」というグループを作りました。ドイツに2度と戦争を起こさせないために、ドイツに加えて、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、イタリアの6カ国で作ったのです。これは、20世紀のとても大切な政治的な発明です。

そして、続いて、A=原子力もグループで共同管理する「欧州原子力共同体」をつくりました。戦争の材料をみんなで管理すれば、かつてのナチスの様なことをドイツがやろうとしても、「だめ、みんなで管理している」ということになります。原子力も同様で、ナチスみたいな独裁政党が原子爆弾を作ることを防ぐことができます。だから材料のウランをみんなで管理しています。これが、今のEUが生まれた一番はじめのころの理由です。



さきほど、皆さんは「紙の爆弾」を国家同士で投げ合いました。戦争をしたわけです。そのあと、「やめ」の声の後、何人かの学生さんがやめずに何回か投げ続けていました。でも、先生が「もう投げてはいけません」と言わなくても投げるのをやめてくれました。シーンとしたこの教室の雰囲気が、「紙爆弾を投げさせない社会」を演出していたといえるのです。保護者の皆さんの目、スタッフの目、学生の皆さんの目があるので、「投げてはいけない」という雰囲気が作りだされたのです。実は、このような「戦争をすることを許さない社会をつくる」ことがとても大切なのです。

さあ、ここまで、1時間目では「なぜEUが生まれたのか」を考えてきました。EUは「ヨーロッパに平和をもたらそう」「もう戦争はこりごりだ」という気持ちから生まれたのです。そして、そうやって「平和」を追求していく中で、次の段階にヨーロッパは進んでいくことになります。

#### 【欧州経済共同体】

ここまで、EUは、欧州石炭鉄鋼共同体と欧州原子力共同体の設立から始まって、国同士の協力を進めて何とかヨーロッパの平和をちゃんと続けられるようにしようと考えてきたことを理解しました。実は、こうやって始まった協力関係ですが、どんどん、国同士の結びつきが鉄・石炭・原子力だけではなく、それに関連する経済的な協力も進むようになっていきます。それは、ちょうど、皆さんのお友達との遊びでもそうだと思いますが、はじめは学校の休み時間だけ遊んでいた友達も、遊ぶ時間が増えるにつれて仲がよくなり、近くの公園で遊ぶようになったり、お互いの家に遊びにいったりすることと似ていると思います。

そうやって、国と国どうしの仲がよくなって、いっそのこと、経済も皆で一緒にやっついていかないかということで「欧州経済共同体」、すなわちECをつくりました。経済も1つの国の中のように皆で管理すれば効率がいいじゃないかということです。

#### 【具体的な今のEUの理解】

ここからの1時間目の後半では具体的に、EUが何をしてきたのかを分かってもらうことにいたしましょう。最初に見たように、国という枠を超えて協力関係を進めているEUは、今28の国が加盟しています。EUの旗もあり、ベートーベンの第9交響曲「喜びのうた」がEUの歌に制定されています。前半を使って皆さんに理解していただいたように、この28か国はまだ今後増えていく可能性があります。そのEUのモットーは「多様性」を認めることです。いろんな種類の人が出て、いろんな考えがある、いろんな文化・言語、肌の色を認めていこうということです。ただ、さまざまな多様性は認めるのですが、仲間の国になるために、EUには譲れない「メ

ンバーのルール」があります。トルコのような加盟候補の国々は、EUに加盟するために国の制度を整えて、

- 1 民主主義
- 2 市場経済
- 3 法の支配
- 4 人権

などの条件を満たさなくてはなりません。これらの価値をEUはとても大切にしている「価値の共同体」とも言われるほどなのです。

EUが成し遂げたことは大きくわかりやすく言うと3つあります。

- 1 平和を作り上げたこと
- 2 ひと、ものの移動を自由にしたこと。
- 3 共通の通貨を作ったこと

1番目の平和を作り上げたことは、1時間目の前半で詳しく理解してもらいました。EUはその功績でノーベル平和賞を2012年に受賞しています。ここでは、2番目から説明しましょう。この写真はベルギー、ドイツ、オランダの国境です。何もない、線も引いていませんね。川越から所沢に行くのにパスポートはいらない、それと一緒にです。まるで隣町に行くように人々は移動します。ある意味、EUの市民には国境がない、すなわちパスポート管理がないのです。これが今日の授業のタイトルにも書いたことです。移動が自由になっただけではなく、EUの加盟国の中であればどこで働くことも自由です。どこで働いてもいいので、ギリシャ人の子どもがロンドンの大学に行き、フランスの会社で働くこともできます。住んでいる場所が国籍と異なる場所でも、EUの議会で投票さえできます。具体的に例をあげると、フランス国籍の人がドイツのミュンヘンに住んで、BMW（ドイツの自動車メーカー）で働きながら、EUの議会選挙に投票できます。ドイツ連邦のバイエルン州議会の投票もできます。ただし、フランス人だからドイツの国会議員は選べません。

成し遂げたことの大きな3つ目は、共通の通貨であるユーロを導入したことです。デンマークなど導入していない国は別ですが、ユーロを導入している国ではどこでもユーロでお買い物ができます。昔はヨーロッパに行く時、国によってお金が違ったから5つくらいお財布を持って行ったものです。これを見てください（写真）。これがユーロ紙幣です。本物も持ってきたので回しましょう。お札の大きさが違うでしょ？目が見えない人でもお金の金額がわかるようにしてあるのです。これも多様性を受け入れるための工夫です。

さあ、1時間目最後のスライドです。EUは次のようなことを目標に現在活動をしています。

- ・戦争をなくそう（平和構築）。
- ・テロをなくそう（危機対応）。
- ・豊かな社会を作ろう（貿易）。
- ・死刑には反対（人権）。
- ・アフリカを豊かに（開発援助）。
- ・温暖化を防止（気候変動）

こんな風に自分たちの考え方、価値観を世界に広めようとしているのです。

